
人斬り

仙人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人斬り

【Nコード】

N3481D

【作者名】

仙人

【あらすじ】

江戸時代後期の元治元年6月5日に、京都三条木屋町の旅館池田屋で京都守護職配下の治安維持組織である新選組が、潜伏していた長州藩の尊皇攘夷派を襲撃した事件である池田屋事件。この時、一人の青年が新撰組隊士と壮絶な斬り合いを演じ、そして死んでいった。この物語は、その青年の激動の二年間を描いた物語である。

第壱話：始まる前の始まり

風通しよのよい、冬ではまるで役に立たない蒲団が夜風を取り込んで、乾いた心をさらに乾燥させていく……決闘前には少々辛い夜だった。文久2年（1862年）、まだ年のころ十九になったばかりの事だった。

実家は京都で道場を開いている。

こう言っておけば大概の群衆は私のことを強くて立派で頼れる人間だと勘違いしてくれる。

しかし、実際の私はというと、剣術の腕前は平平凡凡、お世辞にも立派とは言えないみなりと顔立ち、自分以外の為に剣を振りたいとも思わない頼れない性格、とこんな感じである。

そんな私がどこをどう間違えたのか、さるお武家に決闘を申し込まれてしまった。

場所は鴨川のほとりということらしい。

そして、使う得物は真剣。

そんな何の変哲もない私が何故試合しなければならないのか、経緯はいたって簡単。

どれだけ才能がなかるうが、私は一応武士の生まれで、そして何より道場の師範の息子なのだ。

ゆえにそれなりの物を腰に下げていたいという、なんともちんけな欲望があつた。

そこで一体どうしたらいいのかと考えた結果が、賭け。

なるべく弱そうな奴に片っ端から声をかけ、下げている刀を賭けて戦う。

弱そうな奴は大抵弱く、どうにか自分でも倒せる程度のものだつた。そうして何人も斬つていけば、いつか業物にたどり着くのではと思つていた、あの頃の私は。

しかし、弱い奴が立派な業物をのうのと腰にぶら下げておけるわけがない、なぜなら私のような輩がごまんといつていつ盗まれるとも限らないからだ。

そんな当たり前のことに気がついた時は、すでに町の御武家に睨まれて、あまつさえ因縁をつけられた後だつた。

これが、そんなに強くもない私がきつちり鍛錬を行っている御武家と試合う理由。

この経緯を思い返すだけで、はらわたが煮えくりかえって自分自身をのしてやりたい気分になるが、そんなことをしたところで後の祭り、状況は何も変わりはない。

もう私はこの短かつた生に別れを告げて死ななければならぬのだ。

短かつた……終りがこんなにも早く、あつけない形で訪れるなんて夢にも思わなかつた。

こんな状況に立たされて初めて、父の言うことを聞いて剣術にしっかり取り組んでいれば、と後悔の念を抱いた。

ちっばけな反抗心一つで、あの時の父の言葉をはねつけていなければ。

そう思うと悔やんでも悔やみきれない。

冷たい風が少し気になるが、もう寝ないと明日の戦いに響いてしまう。

覚悟はまだできていない。

だけど、今はもう寝よう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3481d/>

人斬り

2010年10月22日00時29分発行